

【本号の内容】〔主張〕葦津珍彦における象徴天皇と自衛隊「建軍の本義」自衛隊は南西諸島から「名誉ある撤退」を（木川智）：1 / 〔連載〕アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る・28・タイ編④（仲村之菊）：4 / 花瑛塾五月活動報告：7 / 〔記録沖縄戦〕③軍民・日米それぞれの視点から（沖縄戦史研究会「棒兵隊」）：8 / お知らせ・編集後記：16

1部 1000円  
（別途送料160円）

## 葦津珍彦における象徴天皇と自衛隊 「建軍の本義」

# 自衛隊は南西諸島から「名誉ある撤退」を

神苑の決意 主筆 木川智

〔主張〕 本紙第二十号巻頭言「葦津珍彦の安保・沖縄論を読み解く―自衛隊南西シフトの検討も踏まえつ―」や、同じく第三十号巻頭言「いじめ・任官拒否、安保関連法、日報隠ぺい、南西諸島配備 自衛隊は、これでいいのか―で繰り返し取り上げてきた自衛隊の南西諸島配備について、また取り上げた

い。それというのも、本年三月に開庁した陸上自衛隊宮古島駐屯地において、住民には「小銃弾などの保管庫」と説明していた施設が、実際には迫撃砲や中

距離多目的誘導弾などの弾薬庫であったことが発覚し大きな問題となったが、新たに平成二十八年に開庁された陸自与那国駐屯地においても、これまで「貯蔵庫施設」と説明されていた施設が弾薬庫であることが発覚し、住民から「隠ぺいだ」との批判が高まっているためだ。

また石垣島の平得大俣地区で建設が進められている陸自駐屯地計画でも、カムリワシの営巣活動が確認され一時作業が中止されたものの、「影響はない」などとして作業が一方的に再開された。

石垣島での駐屯地建設は、ただでさえ駐屯地建設を容認・推進する石垣市政により住民投票を求める市民の大きな声が潰されるなど手続きの正当性にも問題があり、環境アセス逃れという批判も存在する。石垣島におけるあまりに強硬な駐屯地建設は、「第二の辺野古」ともいえるような事態である。

私たちは厳しい任務に励む自衛隊員に心からの敬意を表し、日本の安全保障の維持における自衛隊の役割の重要性を理解するからこそ、傍若無人で平然と住民を騙す自衛隊の姿勢を許すことができない。